

平成22年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション

フリガナ オガワ マサナ
氏名 小川 雅魚

研究期間 平成22年度

研究課題名 高度成長期におけるスポーツ・芸能の変容

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	小川 雅魚	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

近年、とくに昨年、今年と世間をにぎわしている野球賭博問題。しかしこれは、新しい問題ではなく、すでに40年ほど前に、日本国中を揺るがせた事件であった。それは単に、刑事事件としてではなく、国民の娯楽に密接に絡んだ、文化の問題でもあった。戦後直後の混乱期にその根はあったのである。美空ひばりと池永正明という、芸能とスポーツの代表的人物の足跡をたどることで、戦後史のひとつの見方が示せるのでは、との野望です。

2. 研究方法等

戦後ただちに、天才少女歌手としてデビューした美空ひばりと、昭和38年の高校野球選抜大会の優勝投手で、40年にプロ入り、いまはなき西鉄ライオンズの若きエースとして活躍しながら、野球八百長事件に巻き込まれ、わずか5年の選手生活で永久追放された池永正明。二人の足跡を、活動の現場に赴き、当時を知る人々に取材して考察する。

3. 研究成果の概要

6月1日の創立記念日に、横浜市磯子区滝頭の美空ひばり、本名加藤和枝の生地を訪ね、いこの加藤高儀氏に話をうかがう。さらに初の舞台となった「アテネ劇場」の跡地を探索するも、確定しえず、昭和28年に磯子の丘の上に完成した、いわゆる『ひばり御殿』の跡地もみる。このあと、故郷の渥美半島にかえると、デビュー直後に、美空ひばりが「福江」の町に来て歌ったことがあるということを知る。そして当地での取材もはじまるわけである。

美空ひばりと日本の戦後については、今年度3月発行予定の国際コミュニケーション学部紀要『言語と表現』に「笛に浮かれて一極私的美空ひばり論」として発表。

池永正明については、8月に氏の生地である、下関を訪れ、中学時代の担任であり、野球部の監督でもあられた、中国地区高校野球連盟顧問・内山寿雄氏、および内山氏の豊浦高校時代の教え子であり、豊浦高校野球部のエース、愛知学院大学に進んでは、1年時にノーヒットノーランを達成し、ノンプロ熊谷組の主戦投手であった、村中賢治氏から貴重なお話をうかがっている。3月にも再び下関を訪問し、今回は池永氏の生地である、神玉地区を訪れ、かつて漁業の町として栄えた歴史的背景を調査したいと考えている。さらには夏までに、池永氏本人ともお会いしたく思っている。

この研究は深く日本の第一次産業の在り方とつながっていることが徐々に見えてきており、長い道のりになりそうな気配であります。よろしく

4. キーワード

①芸能	②野球	③漁業	④賭博
⑤闇市	⑥戦争	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

「笛に浮かれて一極私的美空ひばり論」として
相山女学園大学国際コミュニケーション学部紀要『言語と表現』掲載予定。平成23年3月発行。